

# 乾燥プロセス工学グループ

本グループは 2019 年度末 (2020 年 3 月末) で解散予定です。

## 1. 研究室の概要

乾燥プロセス工学 G では、ghost(コラムを参照して下さい)を追求しています。まず乾燥プロセス工学という分野を対象として様々な乾燥モデルたちを提案します。もちろん、これらのモデルたちは産業界や学界で即戦力とならなければなりませんし、モデルたちの妥当性を検証するためには何よりも実験が大切です。次に、実験により検証されたモデルたちを検討して、それらの一般性について考察します。一般性が高いほど「強い ghost」だと言えるでしょう。先端ではなく異端が目標です。

## 2. 構成員 (2017 年度)

教職員: 今駒博信 准教授、熊谷宜久 技術専門職員 (兼任)

学生: 博士前期課程 5 名 (M2: 2 名、M1: 3 名)、学部 (B4: 3 名)

(注) [移動現象工学グループ](#) と仲良しです。

## 3. 主な研究課題

研究課題を表に示しました。乾燥プロセス工学 G の役割担当です。

今駒隊長の担当は「モデルの提案(ghost 作り)」です。博士前期課程学生の担当は「モデルの妥当性の検証」です。

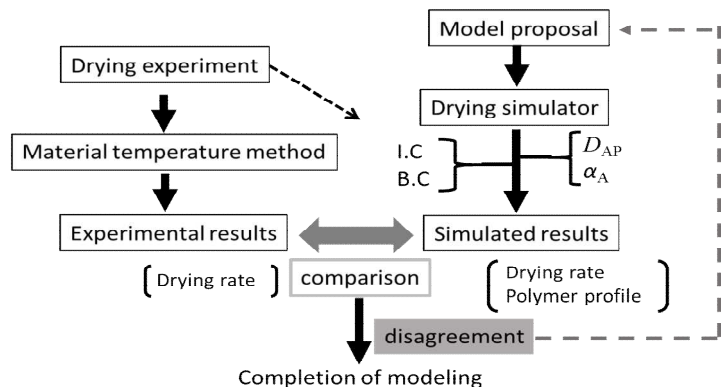
学部学生の担当は「モデルを検証するための実験実施」です。が、能力と得意分野次第で変わります。

## 4. その他

今駒の HP「[乾燥パラダイス](#)」をご覧ください。

### コラム

15 年ほど前「ghost in the shell (攻殻機動隊)」というアニメが始まりました。「AI (人工知能=タチコマ↓) が人格を得ることは可能か？」すなわち「知識の集合が、その知識を体系化できる仮説を自ら生みだし、その仮説が新たな知識を生み出すことは可能か？」ということテーマとしたアニメでした。ghost とは新たな知識を生み出す仮説のことです。もちろん、乾燥プロセス工学 G ではアニオタを募っているわけではありません。幽霊や人工知能の研究をしているわけでもありません。文系人間の言葉に匹敵する力を数式の中に発見したい。それが乾燥プロセス工学 G の願いです。



研究戦略の例 (博士前期課程学生)

### 表 研究課題

ghost 候補... 予測モデル、相関モデル  
乾燥モデル... 熱風乾燥  $\cap$  (ポリマー溶液塗膜  $\cup$  ラテックス塗膜  $\cup$  スラリー塗膜) における乾燥予測モデル、乾燥速度・移動物性推定モデル  
実験テーマ... 乾燥速度測定と乾燥現象の観察